

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム せせらぎの家	評価実施年月日	平成20年9月20日
評価実施構成員氏名	小川恵美子・奥村美鈴・長谷川杏奈・池田雄司・泉絵里子・岡山有代・外山正鉦・嵯峨洋子・四戸さおり・十良沢安子・		
記録者氏名	小川恵美子	記録年月日	平成20年9月30日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>平成19年度に、職員より意見を吸い上げて、それを集約したものをベースとして基本理念を練り上げた。その中には「地域の中で生活する“架け橋”になる」という内容も盛り込まれている。</p>	○	<p>地域密着型という事を念頭に置き、その理念に基づき自然な形で地域に参加出来るように行事等にも参加しているし、これからも積極的な参加をしたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を自分達の物として浸透させるため、朝夕の申し送り唱和したり、実際に事例に対処する中で常に理念に基づく指導を行っている。</p>	○	<p>今後、新入職員を始めとして在職職員にも、更に内容を理解・浸透させる為に、後は朝の申し送りや会議内で、実例と理念を絡めて指導していく。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>月に一回、地域住民やご家族に向けて「かわら版」を作成している。その中では、介護・健康情報や、ホーム内での出来事や日常の風景などを掲載し、時にはホーム内でイベントを行い地域の方々に参加して頂いている。</p>	○	<p>今後は、町内・地域住民等・・・対個人・・・だけではなく、団体施設(保育園)等とも関わりを密にして、今まで以上の地域に密着したホーム作りを計画している。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近所の子供達は、虫取りの合間に気軽に立ち寄って遊んで行ったり、公園で咲いている花を摘んで届けられたり、と自然な形で遊びに来てくれる。ご近所の方にも、旅行のお土産や、畑で収穫したものをおすそ分けして頂いている。ホーム内でのイベントには遊びに来て頂いて、入居者さんと共に、おやつを作って食べたり・・・という機会もある。</p>		<p>ホームが中心になって定期的にイベント等も行ない、隣近所の方々と共に、気軽に交わる機会をさらに検討していきたい。社会資源であるボランティアの方々の協力を得て、人形劇などもホーム内で開きたい。その際には近隣の子供達(保育所)などのタイアップも考えている。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>現在、町内会の「青少年育成部」の役員として地域の会合に参加している。「子供SOS」の役割を担い、子供達を見守る活動に参加しているため、子供達が気軽に立ち寄れるようにと心掛けている。</p>		<p>町内活動や美化活動も、今まで同様可能な限り積極的に参加して、地域住民の一員として生活し、ご近所の方とも楽しく交流できるようにする。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域住民の高齢者状況・生活状況等は まだはっきりと把握してはいないが、かわら版等を通して、介護相談に応じる用意がある事をしっかり示している。</p>		<p>地域に居住している高齢者の状況を把握したり、交流する機会等を設置し、地域の方の相談窓口になれるように対応する。その為にも、職員ひとりひとりのスキルアップに対して努力する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>自分達が行ってきたことを冷静に見直して、改善項目を具体的に進めて、ひとつひとつを定着させようとしている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>今度は更に、今まで参加したことが無かったご家族や、関係者の方にも、ぜひ参加への呼びかけを行って、幅広い意見を集める様に行っていく。 なるべく多くの方に、広く参加して頂きたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>今後も積極的な行政との連携を取る事によって、常に新しい情報収集などを行う。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>社内研修や個別の資格取得に向けて、更に専門性の向上の向けて学習し、相談業務に正しく対応できるスキルを身につける。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今後も、新入職員を含めて、会議で話し合いの場や、教育の機会を多く作る 体だけではなく、心の抑制や虐待についても事例を用いながら議論し、職員全員のモラル向上、スキルアップを目指していく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>新しく入居される方は、ご本人ご家族にとっても不安一杯である事を理解し、疑問や不安を解消するように、しっかりとサポートを行うようにする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・不満・苦情は真摯な姿勢で受け止めて、苦情報告書として内容・対策を盛り込み記載し、職員全員に周知させるべく徹底している。		一見苦情と気がつかない内容であっても、その裏側にある心理を読み取りしっかりと読み取り、苦情・意見として受け止め、皆で周知した中で改善に向けて実行できるような体制を確立させる。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	個別の状況の変化に関しては、電話等で必ず早急に報告し、生活状況、イベント開催関係についても「せせらぎ便り」「かわら版」等で報告している。 入居者同様、ご家族に対しても個別で対応している。		更に、細かい生活状況をお伝えする為に、ケアプランに沿ったモニタリングを毎月行ってご家族にお渡しして、納得・ご安心して頂く。 担当制を充実させた中で、よりきめ細やかな家族へのサポートを目指す。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置している。また外部の相談窓口もお知らせしている。 話のしやすい雰囲気の中で、個別対応による聞き取りを行い、その中から現在感じられている内容を引き出した上で、職員間で対策を考え対応している。		入居者同様、ご家族に対してもアセスメントをしっかりと取りながら、納得していただけるまでしっかりとお話をする。 苦情に関しては、現状の確認・今後どうするか・どうなったか・までしっかりとした報告を行う。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議を始めとして、各種会議の席で自由な発言をする機会がある。 更に、ミニユニット制を敷いて、多数の会議では発言しにくい部分も、少人数にて行う事によって、より多くの意見を吸い上げられるような環境を整えている。		職員間のアイデアや創意工夫を提案しやすい環境を整える。 自発的な発想・創意工夫が取り上げられやすい雰囲気づくりを心掛ける。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	担当制を敷き、個々の家庭の状況をアセスメントし、家族の状態もケアプランに反映させる。ご家族の状況に応じては人員を確保して通院対応等も柔軟に行っている。		ご家族の要望にもそれぞれのものがあり。対応に苦慮する部分もあるが、ご家族の状況を考慮したり、職員間で話し合いの機会を設けたりして、可能な限り、要望に応えられるような対応が必要と思われる。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	環境・人員の変化による、ダメージを最小限に抑えられるように、馴染みの職員はしっかりと寄り添い、気分転換なども試みながら、不安にならないように細心の注意を払って関わっている。		現在まで、人員の異動で不安定になったケースはほとんどなかったが、これからも、十分に配慮してダメージを与えないように注意する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日々の中で起きる様々なケースの中での指導を行っている。 職員各々のレベルに合わせての、OJTや外部研修による学習機会等を設け、職員本人の学習意欲をバックアップするような体制を取っている。		今後も積極的に、資格取得や学習に向けて外部研修に参加して、職員全体的なスキルアップを目指す。 職員のスキルに合わせて自発的な学習意欲を支援していく。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員間の地域同業者とのネットワークはまだ構築されていない。		今後は、同業者間の交流を深めてお互いに情報交換や、互いの入居者同士、良い関係で交流が持てるような機会を作りたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個人的な内容については統括部長が個別対応されている。 その他としては、自由に発言出来る環境を構築し、入居者と共に外出やイベントなどを通じてストレス軽減などを試みている。		仕事以外に、趣味や楽しみの部分で職員間で交流する機会を設けた
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	それぞれ中長期の目標を定め、それに向けてステップアップを目指している。 資格取得に向けた勉強会を開催したり、全体的に専門性を求めてスキルアップを目指す雰囲気になっている。		資格取得を通して専門性の向上を更に目指し、職員同士互いに刺激し合いながらより高い場所を目指していける雰囲気を作る。 創意工夫・努力した者が自然な形で認められる・互いに認め合うような社風作りをする。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必ずご本人と話しをして、現在の状況や悩み・不安などをしっかりとアセスメントさせて頂き、しっかりとニーズとして取り入れさせて頂く。		今後も、事前にはっきりとしてアセスメントを行って、ご本人の思いをしっかりと確認させてもらう。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前には、必ず面談にて相談を行い、困っていること、不安な事など、入居後の改善策なども提案しながら話し合いをしている。		これまでの経過や状況などをしっかりと傾聴し、ご家族の状況・思いを受け止めた上でしっかりと根拠を持って提案をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族のニーズに対して、ホームで出来る事、行えない事は、はっきりと説明し、行えない事に関しては他のサービスについても情報提供を行い、選択して頂いている。		ご本人とご家族のニーズの見極めをしっかりと行って、正しい提案が出来る様にする。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や面談で来訪された時に、ホールで職員や入居者と一緒に、お茶を飲みながらホームの雰囲気を感じてもらえるよう配慮している。希望があった場合には、ご家族にも宿泊して頂いて、不安が軽減されるように努めている。		入居前の見学、面談時だけではなく、入居前より遊びに来て頂く感覚で、何度か来て頂き、ホームの雰囲気に慣れていただくように工夫する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活の場面場面で、職員が教えていただいたり、お手伝いをさせて頂いたりしながら、一緒に調理・掃除・畑作業・買い物などを行い、共に共有空間をゆったりと過ごしている。		今度も何を作って食べるか、どういふものが必要か・・・など、職員が一方的に考えるのではなく、共に相談し合い、一緒に探し、一緒に行く。共にホームで過ごすパートナーという意識を大切にします。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	個々のご家族の関係や考え方には違いがあり、そのような状況を考慮しながら、お便りや、来訪された際なども含めて、少しでも多くご本人の生活の様子をお話するように努力している。		情報提供をより多く行い、ご家族とも信頼関係を強くする。ご家族と共通の理解を持って、協力し合い、しっかりと支援をいくという体制を大切にしたい
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族のご本人に対する思いを受け止めつつ、ご本人からご家族への思いも大切に受け止めてご家族にお話しさせて頂いている。		ご本人とご家族が、相互に良い関係であるように、しっかりと橋渡しをしていきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	しっかりとアセスメントをした中で、ご本人が望まれている馴染みの場所等、個別に対応し外出する機会等も設けている。		個別対応をした中で、アセスメントをしっかりと行い、ご本人の心の中にある大切な思い出や場所について、共に共感し合う。ご本人の希望にそって、そういう大切な時間を再度味わえる機会を設置する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士、気の合う方、合わない方、がいるので、その関係も把握しながら職員が中に入り、一緒に過ごせるように環境を整えるように努めている		互いに過ごされた環境などにより、思考に相違があるのは当然な事なので入居者同士互いに不快にならないように、職員が間に入り穏やかに過ごせるように工夫する。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後は、あまりコミュニケーションをとる機会が少ないが、今後はそちらも検討したい。		季節のお便りや、定期的なお便りなどを発送したりして、ご家族のご様子をうかがいながら、何かの際には相談に来やすい雰囲気を作る。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別担当制を敷き、その方の思いや願いをアセスメントし、担当が窓口となり、その方の気持ちになり可能な限りご希望に添える様に支援している。意向に沿えない場合は、ご本人と直接ゆっくりと話し合い納得していただけるように努力している。		まずは、しっかりとアセスメントを取ることが大切にしていく。ご本人の希望、ご家族の理解、職員間の連携。「思い」を大切にすべく、その方のご希望に添える様に都度、前向きに検討する。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や習慣、サービス希望部分などについては、入居時点で、ご家族やご本人からアセスメントをとっているが、その後、日常の会話の中より、引き出したものは追加として、介護計画に反映させる。		生活習慣や生活歴は、その方を形成する大切な要素である事を認識してそれを尊重した生活ができる様に支援させて頂く。その後、ご本人やご家族から収集した情報は追加として基本シートに掲載し、介護計画に反映していく。今後の介護計画に関しては全て、入居者本人の気持ちになって作り上げていく。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝必ず打ち合わせの後に、一名の方に対するミニカンファレンスを行い、担当者を中心としてその方の現在の心理状態、身体状態について皆で注目し考察する時間を作っている。		ミニカンファレンス、モニタリング等を通して、担当者だけではなく他職員からも広くその方の状況について情報を収集する。担当者は介護記録やそれらの情報を網羅した中でその方の状況を把握し職員全員に周知させる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	職員ひとりひとりが入居者の担当となり、センター方式のケアプランを作成している。毎月一回ユニット会議でモニタリングを行い他職員の意見も反映できるようにしている。また、担当者はご家族の意向を把握するように連携を図っている。		新入職員を含め、全職員が介護計画を立てられて、その中にはご本人や、ご家族の願いや希望がしっかりと反映されるようなプランを作り、それを元に、支援できる体制をしっかりと作る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	対応が行えない状況の変化があった場合には、その都度スタッフ間で話し合って対応している。		日々の打ち合わせ、モニタリングなどでの変更はしていたが、今まで期限前の介護計画自体の見直しは今までしていなかった。、今後は必要に応じて介護計画の変更等に対しても柔軟に対応したい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケア記録、カンファレンスノートを活用して介護計画見直しに役立たせている。		今後、ご本人の意思・思いを多く反映させる為にも、しっかり発語や新しい発見などを積極的に記録に残していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	密接な提携医があることによって、体調時の異変など、柔軟迅速に対応できる。		今後も状況に応じて、迅速な対応をするように心掛ける。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署主催の心肺機能研修などを、職員全員で行っている。		消防主催の研修は必要と思われる大切な要素なので今後も継続していく。 ボランティアの活用はあまりされていないので、今後は積極的に取り入れていく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は、他事業所のサービスの利用は無いが、必要に応じては検討する。		ご本人やご家族の意思を尊重したうえで、前向きに検討する。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	後見人制度についてご家族から相談があった際に、ホームが窓口となり、地域包括支援センターの助言を得て話を進める事が出来た。		今後も、このようなケースが発生した場合には積極的に助言を頂き連携を深めていくようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人やご家族が納得した上で、協力医療機関となっている伊勢病院が週に一回往診に来ており(毎月一回 検査)入居者とも馴染みの関係を築いている。 その他にも体調の異変時には迅速に対応して頂いている。 また、ご本人ご家族の希望がある場合は他病院の受診もしている。		今後も主治医と連携した中で健康管理については迅速に対応してい
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医の受診は行っていないが、現在は主治医が対応し、相談や薬の処方をしている。		ケアの中で認知症の進行を遅らせるべく関わりを持つように努力しているが今後、状況によっては専門医の受診も必要となってくるかとも思われる。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所内に看護職員を確保している。 看護職員・ケアマネージャーを中心として緊急対応のマニュアル作成を行った。		作成したマニュアルを基にして、実際の対応・教育等に活用していきたい。、
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中も職員が面会に行き、ご家族との橋渡しになったり、状況の把握をしている。 場合によってはご家族への説明の場にも立ち合わせて頂き、退院に関する様々な相談業務も行っている。		入居者が不安にならないように、職員はしっかりと寄り添いながら体調の回復に向けて支えていく。 病院との連携がうまく取れる様に連絡を密にする。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に終末期について、ご本人ご家族から意向を伺っている。		今後、どの様に対応していくかマニュアル作成を検討している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	歩行→寝たきり状態になった場合において、ホーム内、ご家族、主治医とも話し合いをし、状態によっては適切な医療機関の入院や、ホームで生活出来る為には、どのような環境改善をしていく必要があるかを話し合いし、出来る限りホームで生活できるよう取り組んでいる。		ご本人・ご家族の意向を尊重しながら、状況に応じて適切な対応・支援を行えるような環境作りをする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>退去があった場合には、ご本人の負担が軽減するように文書により情報交換を行っている。</p>		<p>センター方式のケアプランを使うようになって情報を共有しやすくなったと思われる。今後も情報共有化のためにも継続。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録に関してはホーム外持ち出し禁止、部外者による問い合わせに対しても慎重に対処している。全て居室に入室する際には、ご本人に許可を頂き、報室する際にはノックをする・など、入居者のプライバシーには十分に配慮する。会話の中でも高圧的な話し方等は絶対にしないように指導されている。</p>		<p>個人の秘密保守やプライバシーの尊重などは守られて当然のものであり、事あるごとに指導を受けている。人生の大先輩である事を念頭に置き、会話の中でも失礼が内容に関わり方に関しても都度指導していく</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の関わりの中で、その方の考えを引き出すようなコミュニケーションを取っている。常に何かを決める時には、利用者を選択権を持って頂いている。職員からの一方的な誘導は行わない。</p>		<p>主体性を尊重して、何かを行う時はいくつかの選択肢を提示したりしながら、最終的にはご本人に決定して頂く。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員ひとりひとりが、パーソンセンタードケアを理解する事によって、職員の都合が優先されないように、ご本人の意思が尊重される生活が送れる様に支援するよう努力している。</p>		<p>パーソンセンタードケアが完全に理解できるように、何度も学習・指導した上でご本人の意思の尊重・という理念を遵守すべく関わりを持つ。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご本人やご家族の希望の確認を取った上で利用している。ご本人の希望により、行きつけの理容院に行かれている方もいる。</p>		<p>基本的には訪問してホーム内でやっていただいているが、ご希望のある方に関しては都度対応していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理が出来る方、したい方と一緒に調理を行い、食事中はその事を話題に感謝の気持ちを伝えている、好みのものをメニューに入れたり、入居者が作られた野菜を料理に活用し、共に収穫を楽しんでいる。		調理補助だけではなく、これからはメニューの作成や買い出し等も積極的に参加してもらえる機会を多く作る。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙される方はいない。お酒は常備はしていないが、希望された場合には低アルコールビールなど提供する場合もある。飲み物も、コーヒー、日本茶、紅茶、ココア・ジュース、牛乳など多彩に用意し、ご本人に選んで頂いている。おやつも数種類用意し、お好みで選んで頂いている。		利用者にお好きなものを選択して頂けるように、多彩な選択肢を用意し、その日の気分や天候に合わせて選んで頂く。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄状況に変化があった場合には、ご本人やご家族の了解を得た上で、リハビリパンツから布パンツに変えて快適な時間を過ごせるように支援したり、排泄パターンをある程度掴み、トイレ誘導をする事によって失禁を減らし気持ちよく排泄行為が出来る様に支援している。		適切なトイレ誘導、ご本人の羞恥心を傷つけないように十分に配慮した上で明るい雰囲気の中で援助させて頂く。失敗があった際にも、ご本人の精神的苦痛が最小限にあるように注意を払う。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間は固定せず、ご本人の気分と体調に合わせて自由に入浴して頂いている。入浴剤なども、入居者に選択して頂いている。		入浴着替えの用意、入浴時の洗身など、ご本人の出来る範囲はお願いして、背中や足先など手が届かない範囲は支援させて頂く、その際、今の心情や体調など、ゆったりと話す良い機会として活用する。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間不安で眠れないときには、夜勤者が寄り添い、共にテレビを見たり、暖かい飲み物を飲んだりしながらゆったりと話を聞く。慌てることなく、その方が穏やかに眠れる雰囲気を作れるような環境作りを心掛ける。		何が原因で安眠できないかをまず考える。体調不良ではないか？お昼寝時間が長く昼夜逆転ではないか？不安な事があるのではないか？その内容に合わせてしっかり寄り添い話を聞き、穏やかに休める様に支援する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お一人、お一人の残存能力に応じて、役割を持ち、趣味を生かした生活をそれぞれにしている。		介護度に応じて、自発的に自らの仕事・として活動される方もいらっしゃるが、それ以外の方に関しては、従来の生活習慣を参考にしながら、こちらからさりげなく共に行いながら提案していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭に関しては、預かり金として管理させて頂いている。中にはご本人がお持ちになり、買い物などに外出し楽しまれている。		自分で選ぶ。自分で買い物をする・・・という機会を多く作る。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には散歩やドライブに出掛ける。ウッドデッキには日除けの parasol が常備しており、デッキを活用して自然を見ながらお食事したり、おやつを食べたりしている。		季節に合わせて、車両を活用した外出計画を行いたい。行き先も職員だけで決めるのではなく「入居者さん会議」に話題に上がった内容を重要視して、希望に添えるような計画を立てたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別対応にて「温泉」「カラオケ」等で楽しまれた。ご本人のご希望に沿って希望を叶えるべく調整している。		これからもっと個別にアセスメントを深めて、何を希望されているのか担当者を中心としてしっかりと寄り添い聞き取りをする。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人が希望された際には、ご家族への連絡を取りつないでいる。お手紙を書かれた場合には職員が出しに行っている。		文字を書く機会が少ないので、レクレーションのひとつとして「絵手紙」など、楽しめて美しい物を、大切な方に送る・・・という事を行い、手紙の作る・書く楽しみを味わいたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来所された時は、居室でゆっくり過ごせるように、飲み物やお菓子を提供している。ホールやウッドデッキでゆっくり過ごされたり、入居者と共に散歩に出られる場合もある。		ゆったりと時間を気にせず、ご家族と共に自然に過ごせるような環境をつくる、ご家族の心配事や相談事を話しやすくするために、明るく穏やかに接する。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止推進委員会を2か月に一回開催し、いろんな事例を出しながら、虐待・抑制・拘束についてしっかりとした教育を受けている。その他にも、ミーティングや日時業務の中でもモラル向上するために都度指導を受けている。		身体的な拘束は絶対に許さないのは当然のことだが、精神的な虐待・抑制。命令口調など・・・常に自分達で自覚しながらも、各種会議で何度も話題に上げて職員それぞれのモラル向上につなげる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵に関しては、夜間玄関錠を防犯的理由で掛けるだけであって、他はかける事はない。		錠を掛ける行為は絶対にあってはならないものとして使わない。そしてその理由・弊害についても職員全員が完全に理解できるようにする。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日勤帯では、職員ひとり必ずホールにて入居者の様子を把握し、安全には十分注意するようにしている。夜間は夜勤者が定期的に巡回し、就寝状況を確認して回っている。		居室～ホール移動時にも十分に注意し、入居者全体の体調や精神状態にも、注意しながら、適切な声掛け支援を行うようにする。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その方に応じて、資源整理など作業をするに必要という理由で、自ら居室にはさみを所持されている方がいる。針仕事に関しては、針の紛失の危険性も有る為、ホールにて共に作業するようにしている。漂白剤などは職員側にて管理している。		全てを禁止にするのではなく、その方の状況に応じて時折見守りながら所持して活用して頂く。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の状態やレベルに応じて、それぞれに対応しながら見守り・安全確認をしている。消防主催で心肺蘇生等の緊急対応を体験学習を行った。ホーム自体でも独自のマニュアルを作成し、緊急時の対応について学習した。		ご本人の状態を把握した中で行き過ぎた介護にならないように対応する。ホームで作ったマニュアルをベースとして、実際の介護、教育等に活用し、職員間に浸透させる。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	まだ本格的な訓練は行っていないが、今後消防主催の研修などで全職員が対応できる体制を取る。消防主催の心肺蘇生の研修会にて職員全員が学んだ。		今後も定期的に研修を受ける事によって、緊急の対応時の動作をしっかりと覚える
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議の際に、もしもの時の援助をお願いしている。		まだ不完全な部分ではあるが、町内会へ働きかけ、連携が取れるような状態を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	1人1人に予測されるリスクに対して、その危険性や対応について、ご家族に説明し理解や協力を得る様に努力している。 入居契約時にも詳細をしっかり説明している。		モニタリング等を活用して、ご本人のリスクをご家族にお伝えする。 リスクに対して過剰に防御するのではなく、可能な限りご本人の残存機能や意思を大切にして、適切な場所で見守りをする。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタル測定を行い、日頃より、入居者の言動や表情などを把握し、異変に気がついた際には、迅速に管理者や医師に連絡し、指示を仰ぎ速やかに対応している。		常日頃から、入居者の状態を把握する事が大切な事であり、今後も体調の異変に関しては前後のデータを添えて迅速に対応する。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	現状として、全員が薬の効能を確実に把握していない。 医師から処方された薬に関しては、確実に飲んで頂けるように見守りをする。		薬の効能や副作用について職員それぞれ理解し、誤薬など絶対に起きないようにスタッフ間で声を掛け合い連携を取る。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	飲水を促し、飲み物に牛乳や乳酸菌飲料を取りいれたりしている。 食事については繊維物を多く取れる様に工夫する。		飲水も単調なものではなく、その方々のお好みの種類や方法を用いて好きなものを飲水して頂く、排便確認についても毎日必ず行い排便状態を確認する。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	夕食後は口腔ケアを行い、義歯をお預かりして夜間帯で消毒して朝にお返しする。		昼食後の口腔ケアが不完全と思われるので、ご本人の意思を確認しながら、上手に誘導して口腔内の衛生を保ちたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	盛り付けすぎると、食欲が減少する傾向の方もいるので、その方に合った分量で食べやすい大きさを提供させて頂いている。 水分量に関しては、台帳により記録をしてトータルが見れるようになっていく。		食事はもちろん、飲水に関してもしっかりと記録を取り、飲水不足にならないようそれぞれ楽しい雰囲気の中で自然に飲水出来る様に、飲み物に関しても種類を増やして選択して頂く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	ホーム内はハンドペーパーを活用して常に清潔を保てるようにしている。 食事前には、手洗いや おてふきを提供している。 手指消毒剤を完備し、衛生を保つようにしている。		季節的に発症しやすい感染症に関しては今後も注意する。 外出から戻った際には手洗いを進めたり、食事時には、おしぼりを提供したりして衛生的に過ごせるようにする。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や ふきんは毎日消毒を行っている。 食材に関しては、三日分を一回の買い物するようにして、常に新鮮な食材を使うように気を付けている。		常に消毒や洗浄は基本として行い、職員も食材に触れる際には十分に手洗いをし、冷蔵庫は常に清潔を保つよう整理整頓をして、半端な物に関してはしっかり期日を記載し不要な物は残さない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム前には沢山の花を、入居者、職員共に力を合わせて花壇を作り、ご近所の方が立ち止まり見学されている事もあり、その際に声を掛け合ったりという事がある。		今後も入居者の方と共に、季節を取り入れた玄関や周辺の飾りを、楽しみながら工夫して作っていく。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	頂いたお花や、散歩に行き積んだ野花などをテーブル上に飾っている。		季節を生かした、装飾や飾り物を作ったり 集めたりして作っていく。 職員だけではなく入居者の方と共に環境を作り上げて共に完成を喜ぶ。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやイスの場所に配慮したり、ホールには三つあるソファでその時に応じて自由に座ってテレビを見たりお話をしたりして頂いている。 車椅子の方々にもソファを利用してくつろいで頂いたり、ウッドデッキの椅子も自然を楽しみつつ活用している。		楽な姿勢で洗濯物たたみなど作業をされたり、ゆったりとお菓子やお茶を楽しまれたり・・・とされているが、移動されるときに歩行状態や障害物に注意し、ご本人の意思を確認しながら上手に誘導したい。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時より、ご本人の馴染みの物をお持ちいただくようにお話している。 配置もご利用者の意見や意思を尊重しながら、一番使いやすい場所・方法を提案する。		居室内では、移動時に障害にならないように快適な空間を設置するように工夫し、思い出の物や馴染みの物に関しては、大切に取り扱い飾らせて頂く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	一日に何度かホーム内の気温を確認して、換気を行いホール・居室共に調整する。 気温・湿度共に注意している。		夏場は不快な湿度が高くなりすぎないように、冬場は乾燥しすぎないように換気にも注意して適度に空気の入替えなどを行う。 各居室に温度・湿度計を設置させて頂く。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は、廊下・トイレなどにも手すりが多数付いており、それを活用しながらなるべく御自身の力で歩行・移動などがしっかり出来る様に見守りを行っている。		見守りの中で残存機能を活かした生活を目指していく。 浴槽内の手すり取り付けの件について検討している。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	不安を極力排除するために、ゆっくりとした関わりの中で、混乱や失敗を最小限に出来る様に職員間で話し合いながらケアに当たっている。		職員や入居者の疑問や提案を積極的に吸い上げてそれらを形にするような柔軟な受け入れ創意工夫を取れる体制をしっかりと作る。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている。	日頃よりウッドデッキで日光浴やバーベキューをして楽しんでいる。 ホーム周辺には畑を作り、花や野菜を育てるなど、野外活動の場になっている。		屋外での楽しみ方は、それぞれなので、その方に合ったお誘い方法で誘導させて頂く。自然環境に恵まれた立地条件なので自然の中で過ごす楽しみを沢山感じて頂くような支援をする。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

自然環境に恵まれ、近くには川が流れ、リビングの窓から見える裏山は、冬には鹿が家族連れで遊びに来たり、桜や紅葉など季節感を溢れた中でゆったりとした環境を生かした散歩・遊びなどを楽しませている。ホーム内で各種イベントを行なう中で地域の方々とも馴染みの関係ができ、近所の子供達も外遊びの合間に気軽に立ち寄ってくれる。
寄り添うケア・ご本人の想い・願いを大切にしたい関わりを持つことを職員全員、大切にしながら共に過ごさせて頂いている。